

特43-530

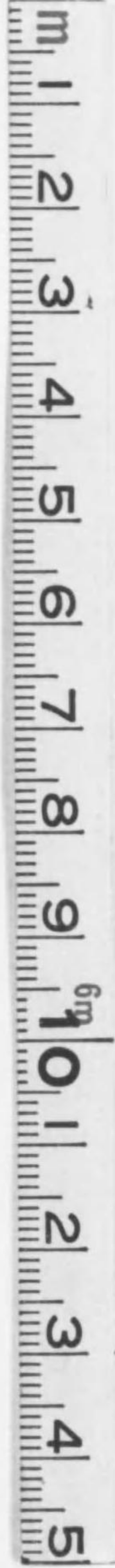


1200800199629

● 特43

530

千家尊福著
 道の草
 全



始



道の一草

夫婦の條

千家尊福著

夫婦の起源ハ伊邪那岐伊邪那美二柱神の始玉
 へる大切なる道にて草木鳥獸虫魚悉く雌雄有
 らざるものなく萬物の生々々々終古止ざるも
 この故なり抑夫婦ハ人情の基本にして萬業の
 最始なれハ互に貞實にして相助け相親志むを
 常の務とすへ伊邪那岐伊邪那美の二神立な
 らびまゝて國土を生産し萬物繁殖する本とな
 志玉へるをは志々大國主神ハ須勢理毘賣命を

道の一草
 千家尊福著

〇 量
 F 記 義 反

嫡后とて終る大業をなす遂げ玉ひ御歴代の
天皇の天下を治め給ふも必だ後の政なくして
善あらじと詔玉ひて皇后を立玉へる類是男女
立ちらびて萬の事業を勤むるを要務とする謂
なれば則夫婦の倫の規則にして大業をなす
玉へる大神等の神なめらの御教化は因る事な
りこれよりて臣民も妹脊の道を亂らば萬業
の最始を正しく志子孫蕃息の基を起し家業榮
昌の地を開くべしされば男女の情態の子を
また設げさせ玉ふ神はありと見えて若きより

老るに至るまで我ら子とてうみいたす事なれ
ば子の生るゝの神の人を役して作らせ玉ふよ
て人力に非る事いふに及ばぬ故は世に死ぬる
より生るゝかたの多き造化の制度にてこれ
伊邪那美命の御言を伊邪那岐命の詔直し玉へ
るによる事なればその御言の天地のあらむ限
末の世まで動りざる御言にして日本も漢土も
西洋をいつくも死ぬる人より生るゝ人のれ不
きなりかくのおとく子をあまゝ生え玉へる
よつきてはその情態の止まざるまゝに思ひの

外なる淫行いんかう及およふものをもなきにしあらねば女おんな
の更さらなり男おとこも謹つとむべき限りなりされい女おんなと生う
れて夫おとこを持たざるものをも世よよりある事ことなれと
それそれも亦また女おんなの道みちよかない女おんなの男おとこにまことあて
夫おとこの血筋ちよじを傳つたふるが女おんなの役やくにて一いつ夫おとこの子こを
またうむい女おんなの譽ほまれとせべきものなれど若わかく
して夫おとこにこかれ姑しよごに睦むつしあらざて別わかるゝ類たぐひ
もありて再三さいさん夫おとこのあふるおとありとも其その夫おとこに
つきそふ間あひだの淫行いんかうなく節義せつぎを守まもらは貞女ちよなんの体たい
ありといふへい

父子の條
親子おやことなるの幽冥いゆうめいの契あきりよて顯露けんろの契あきりよりあら
せ世よに養父いようふ母はは養子いようこといふの顯露けんろの契あきりにて親子おやこ
となるものなりこれをもまた契あきりをなしては實父じつふ
母ははにかいらざこれよく仕つかへ養父いようふ母ははもまた實じつ
子の如ごとくこれとあこれむべきなり抑おさ父母おやの我われ
をうみ我われを育てそのうへは我われをれもふ心こころいあ
にも深ふかなれいその恩おんに報はらせむよ身みを慎つとみて
父母おやの心こころを安やすめんととを務つとめて忘わるま
しきなりことと父母おやのその子この人に誹そられ惡にく

まろくを心苦しく口惜く思ふをのまて人に譽
らせよてはやさるゝを愧ふものなれい子たる
者よハ男女共に忠貞を教ふるハ父母の要務に
いて世に我子の不忠不貞を愧父母ハあらだ故
にその君ヲ忠を盡しその夫よ貞を盡し事孝道
の要旨なりさて神武天皇の御紀よ申大孝とい
ふ事あるハこの天皇天祖の御心を傳き大業を
はくめ亂を戡ち國をよざめ玉ひて天祖をまつ
らせ玉ふハ天皇の大孝といふものなれば臣民
の子孫も先祖の心をつぎその業を盛にし身を

三 家 廟 賦

たて家を治むるハそのほとくよあるべき孝
なり就中童のとき或ハ壯年になりて養とれて
人の子となるもあれと天性眞に孝心をたつ
ざる人ハ養父母に仕ふるも眞の父母よ仕ふる
事と替らぬものなるを眞の父母よさつゝあさま
しきまて不孝ハ人あるハ鳥獸にも劣れるもの
といふべし鳥又反哺の孝あり鳩に三枝の禮あ
るは更にいど禽獸も其飼主を覺えて其恩
に感ざる情あるをまして人の子として父母の
大恩を忘れ鳥にも獸にも劣りてあらば玉にも

三 家 廟 賦

黄金こがねもあへぬ父母ちちうまのこころのいかに悔くやしく
いかに口惜くちやくしからましよく身を慎つつししみよく行おこなう
を正ただすべきなり

兄弟あにがたの條

父母ちちうまの子こ先にまづ生うまるとを兄あにといひ後にのち生うまるとを弟あに
といふ故ゆゑに父母ちちうまれ上うへより見みる時ときの先せん後ごのけち
めつあれとを皆みな同おなし子こもて愛あいよ甲あ乙おつなけとば子こ
たらんもれつ父母ちちうまれ心こころとして互たがひよ睦むつび親おなし
むべきなりとせば兄あにの家いへをつぎ弟あにの家いへも別べつ一家いっか
をたて或あるは他人たにんれ家跡いへせきははくをれをば同おなし

子この中なかも兄あにと生うまれ弟あにと生うまれたる長幼ちやうがう先せん後ごのけ
ちめを思おもひて兄あにの弟あにの及およばざる處ところを教おしへて世よ
まうするくらき事こと無なからしめ弟あにの兄あにの漏はらせ
る處ところを助たすけて人ひとに侮あやとらるゝ事こと無ならざるに
兄弟あにがたの務つとめなりとこれの大国おほくに主神ぬしのかみの少彦すくひこ名命なのみことと御おん
兄弟あにがたとなり玉たまひて御心おんこころを睦むつび御力おんちからを合あせて國くに
土つちを經けい營えいし世よも無なくて叶かなはぬ事物ぶつものをなす調てんへ
玉たまへるも神かみをらひて兄弟あにがたたらんものゝその務つとめ
をなす得えべき事ことなり昔むかしよも兄弟あにがたをばらからと
云ふの同服どうふく一休いつたいの義ぎにそ親族しんぞく家族かぞくの中なかよをわ

きて近親の由の稱なれの恒又對居て事業をなすによりて着向ふ兄とも弟とも云ふ冠辭を有る也然れはたとひ黄金千箱五百箱ありとも兄弟少きの人の寡福にして兄弟はほきの洪福ある事を悟るべし然れや兄弟の多きもの多きよつけて心々の事を出來るものなれや兄の位を守り弟の才の富務を欠めさきば互よいさゝかの事の有ぬやをもの争ひの發るべからばすべて争ひ人の惡又己もまはるによりてれたるものなむ人の惡しくやも己の正くして人の惡の静

又諫め己の惡の改むべし然るに兄弟互に相助けて國の爲家の爲又勉むべきものなるを世又之に反して睦志からぬまゝ交をとこへ絶て他人よりも一きは持離れともあるは不正の事はいはれに在りやも互に兄や生れ弟や生むとる身上のげちめを忘れあるものなればよく兄弟の本文をかへりみてあらむむべしとす又親れ心よなりて見よ兄弟中よからぬをいはかりり口をしく歎く事ならむ親の心を痛め苦ましむるは不幸なれば兄弟睦まじからぬと

とりも直さば不孝のもれといふべし世よの獨
子なるものもありて萬の事心細く世を渡る人
とへあるを兄弟に不き互に相助けて心を同
志くし力を合せとらきに是より固く是より頼
みになるものなかるへけき諺にいとゆる
兄弟武者ふの鬼も敵せぬと云ふ如く同心協力
して國家の干城とならん事を常の心得とすへし
朋友の條
人の相扶け相睦ふへきもれふてそは神の賦與
し玉へる本分は性なきと縁なき人ふも親しむ

睦ふ也縁なき人にむつび親しむを朋友といふ
狭くいふ時の郷里同志のもれをいひ廣くいふ
時の天下は人悉く友となるなり抑大國主神の
少彦名神と兄弟となりて力を合せ心をむつび
て天下を経営しませるも實に朋友は信義なり
阿運志伎高日子根神の我の愛しき友なれとそ
とも又朋友は道とも玉へる事ありて天若日
子の死を吊ひ玉ひしに親志みの極みなり人の
情は日本も漢も西洋も同じく異なる事をけ
れば詞は通とぬ國人を親しみ睦びてみれば心

の誠まことのよく徹とほるなりこの親睦おんぼくの情じやうを段々だんだんや廣ひろ
く推及おしおよせば世界せかいの人ひとは悉ことごとく朋友ともならぬはをし
既すでに友ともの親あつと有ありては我われも余あまれるは人の用もちも充か
て我われに不足そくなるは人ひとも求もとむるは相扶あひたくる誠まことを
れと萬國ばんこく互たひひに交まじりて功いさを施おこし事を易やすふると
この人情にんじやうよりたこれるをの存ぞんりて友ともといふ
義ぎの俗ぞくに取持とちとふ詞ことばやかて友ともといふ事ことにて
その本もとは相共あひともと心こころも同志おともくし親したしみつゝ相輔あひた
くるよりたこれる名ななりされば朋友ともの相扶あひたけ
相議あひかりて君きみの御爲おため國くにの爲ためも力を盡つくへき要道あつたう
かめめするみち

よて天下てんかに闕あへからざる道みち存ぞんる故ゆゑに支那しなに
友ともも交まじはるに信しんを以もつてきる教おしあり西洋せいやうも愛友あいゆう
の道みちありいつれの國くによても同おなし事ことなから日本やまと
の言こと靈たまの幸さいとふ國くにとも助たすくる國くにともいふなれ
ば殊ことに信義しんぎを厚あつくして君きみの御爲おため世よの爲ために人ひとと
契ちぎりし事ことはいはくまでを徹とほへべきなりされと
人の心こころ輕薄けいはくに移うつりて言ことのよよくいふ世よと成なり
しより今の世よの假初かりそめも契ちぎりありそめも信しんを失うしな
ふもの多おほきを其そのは早く改あらためたりされと
己おのれの惡あくを知しりて直ちかすはと難かたし己おのれの善よしとれも

ふを他より見れば悪き事あるものをこれの友の本義のまゝに善事なすゝめて扶け悪しき事な諫めて止むるを旨とし共に悪をなして公に免されぬ黨とならんことを互に恐れ謹むへし

君臣の條

國の建方と國によりて異なりと雖とも何れの國にても君主統領ありて國民は皆その命令を奉して従服する事一なり然も世襲の君主あり撰立の統領あり世襲の君主の其職を子孫に傳へ撰立の統領の年限を定めて國民の上よ

位し年限畢れ又もとの平民となるを此なり是亞米里加合衆國等諸國の國体又して我大日本の之と反し世襲の君主國なり然れど日本人天壤無究の君主國たる國体を辨へ天壤無究に變らせ玉はぬ君上を先祖代々より此末子孫の萬々世までも戴き奉らむ事を以て此大義を忘るべからざるを常の心得とすべし抑我君上の御元祖瓊々杵命の天下の君主と立玉へるは神世より人世よりうつれる始にてその時又寶祚無究の神勅ありて君道定まれりや雖ども

今一層それ本をねす時の天地の初よりしてた
 かはせ玉ふべからぬ事に定まりて有りなり其
 の宇佐八幡宮の神勅に我國の天地の初より以
 來君と臣を定まりき臣をもて君とする事と未
 曾て有らば詔玉ひ又孝徳天皇は詔に惟神我
 于天下治看せやとやよさく奉りき是を以て天
 地の初より君をます國なりと詔玉ひ天智天皇
 は詔に天地開闢より君臣は初有るを賊黨にや
 きて起る所をいらえめ玉へば賊黨の忽ち又畏
 み服ひし事なとあるを以て辨ふべし然れば寶

祚無究の神勅いぢあるく君のいつを君臣のい
 律を臣よてかくのこことく上下は約束かとする事
 なき國の萬國にある事なければ此神勅を守り
 て民を治め玉ふの天皇は孝徳の神勅を奉り
 て君に仕ふるの國民の大忠と云ふものよて此
 心を以て今の國民の今の天皇に侍かへ奉るへ
 きなり此外に主従の契りといふ事ありて人を使
 ひて事を委ぬるにつきてはその契をなして心
 を堅むる事あり然れば一年半季の従者もほと
 くは忠臣の誠いためは主従の契をなせる

出たるそいとうれしきことゝに我千家大教正の
道はゆそしみてたつき玉つるいふを更にて
或はれとるか下をあきわけて神ならふあとを
しらしめ或は藻屑れみかきつむ海邊にたなて
うまし道を教へ玉つるにそのをりことには講説
のはしをつまじるはたがせ玉ひつるかひ
つちがとがく一巻となりはけれや同じふの廣
く世にあらはしてと山のたとるふをなすみわ
たつもにみよよふ海月のゆつ定めぬ山勝海
人の子らあ心をして神ならはしむる道の一草

にそとつみ出たるになん然れやあきつくく玉
いぬ限し多けれの中々の人まとい志れしるへ
ならんとつらましうたもほほもれあら其はれ
ひすあひ千草八千草猶つみ出んと請ひあとし
てなき

吉川 賢太郎

明治十四年十二月十六日御届

著者出版人

千家尊福

島根縣出雲國神門郡
杵築村住

千
寒
一
尊
一
詠

著者出題人

明治十四年十二月十六日晴

吉川 覺 太源

心すも心す草八千草餅へ代出入り請はまじ
る人さへさすへ草餅の味も其の味
は別じ草餅の中々の人さへさすへ
草餅へ代出入り請はまじ

定價四錢

終